

11/28

Fri

研究校 佐久市立東中学校

共同研究者 北澤嘉孝
(信州大学 教職大学院 特任教授)

『縦割り総合』による“探究的な学び” ～地域と向き合い、 『自分に何ができるか』を問い続ける～

本校では令和6年度より、学年の枠を越えた縦割りグループでの探究学習を開始しました。1～3年生の異学年混成グループに分かれ、地域貢献をテーマに「自分たちは何ができるか」という問いを起点に探究活動に取り組んでいます。

当初、職員は「教員が指導しないこと」に戸惑いましたが、生徒たちがアイデアを出し合うことが重要だと捉え、生徒の問いを引き出す声かけや関わりを意識して取り組んでいます。

本年度は全35時間の活動の中で、「調査・情報収集」より「発信・提案」に重きを置き、昨年度の活動を踏まえて当初から発信や成果を意識して活動するグループが増えています。また、「問いを持ち続けること」「振り返りを言葉にすること」を重視し、探究のサイクルを意識した実践へと発展させています。

活動では、観光系のグループが地域の「隠れ名所」に着目し、地域の方への聞き取りや現地調査を実施しました。別のグループでは、地元のヒカリゴケを訪れて地域の方から「もっと広めてほしい」という声を受け取るなど、地域の願いと生徒の活動につながり始めています。食のブルーグループでは、昨年度からの継続メンバーが中心となり、昨年度の探究で得た農家の声を引き継ぎながら活動を進めています。

リーダーやサブリーダーの振り返りからは、「最初は進め方がわからなかったけれど、今は自分たちで計画を立てられるようになった」「下級生が自分の意見を出せるようになってきたのがうれしい」といった成長を感じさせる記述が見られます。また、「問いが変わってきた」「地域の人話を聞いて新しい視点を得られた」との声もあり、生徒にとって探究が「調べて終わる」ものから「新たなことに気づき問い続ける」ものへと深化しつつあることがうかがえます。

11月28日当日は、最終発表会にて生徒たちの「自分たちは何ができるか」の成果をご覧いただき、さらなる探究の深化に向けて参観される先生方にも議論に加わっていただければありがたいです。



共同研究者 北澤先生から

“願う子どもの姿”を明確にし、その実現を目指して「縦割りグループ」を進めていくという、確かな学びの基盤づくりが、東中の実践の特色です。東中に寄せる地域の方々の想いや願いを丁寧に受け止めることで、この学習が、中学校卒業後も学びの動機付けとして生徒の内に生き続け発展していくものになっていくことを願っています。



～日程～

- ① 受付 12:00～12:30
- ② 開会行事 12:40～12:50
- ③ 研究概要説明
12:55～13:05
- ④ 公開授業（最終発表会）
13:20～14:50
- ⑤ パネルディスカッション
15:05～16:35
- ⑥ 閉会行事 16:40～16:50